

2012.10.8.

関西教区 CA 集会 御影神愛教会

山城 晴夫

## FOR THE TIME IS AT HAND

### 終末論の学び

#### I THE TIME

すべてに時がある。 伝道者の書 (コヘレト) 3 : 1

神の時について マルコ 1 : 15、エペソ 1 : 10

cf. 「今は恵の時、救いの日」	Ⅱコリント 6 : 2
「今は眠りから覚めるべき時」	ローマ 13 : 11
「今は主を求めるべき時」	ホセア 10 : 12
「今は手をこまねいている時ではない」	Ⅱ歴代誌 29 : 11

神のご計画における時 エペソ 1 : 11 3 : 11

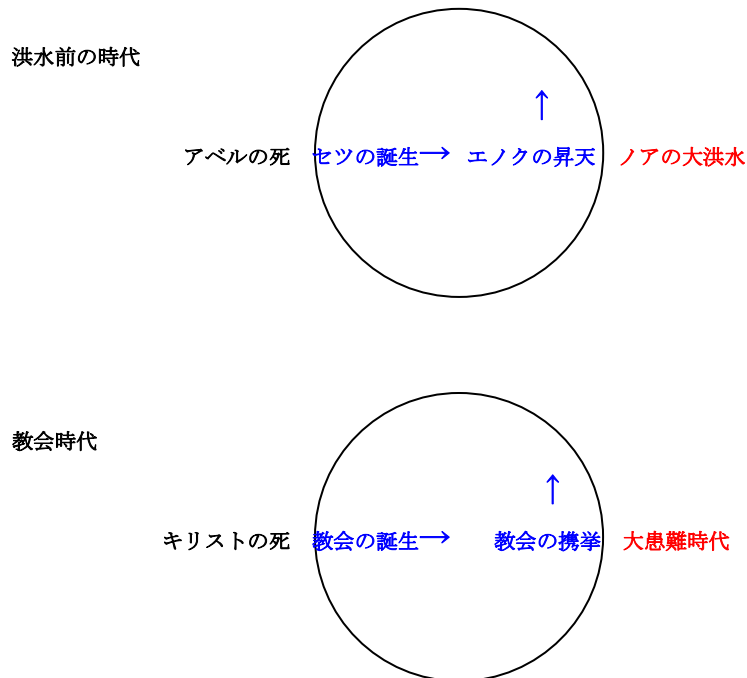
イエスの時 「まだ、来ていない」	ヨハネ 2 : 4、
「近づいた」	マタイ 26 : 18、ヨハネ 7 : 6、8 : 20
「来た」	マタイ 26 : 45 マルコ 14 : 41、
	ヨハネ 12 : 23、13 : 1、17 : 1、

使徒行伝には「突然」と言うことばが4回、記されている。2 : 2、9 : 3、12 : 7、16 : 26 人間には「突然」と考えられるが、神には「突然」ではなく「必然」である。

サタンは時を知っている (黙示 12 : 12) が、人間は時を知らない (マタイ 24 : 39、ルカ 19 : 44)

**TIME** とは？ 私たちの時代に **The Time** と言えば、言うまでもなく、キリストが再臨され、教会 (聖徒たち) が栄光のからだに変えられ、天に引き上げられて、キリストと会う時から始まる一連の出来事を指している。それが何時かは、誰も知らない。 マタイ 24 : 36 「思

いがけない時」マタイ 24：27、42、44、50 ルカ 17：34、35



cf エノクの昇天については創世記 5：21～24

## II 終末（世の終わり）の意味

### 世における終末の見解

- ① **資源の枯渇** 地球に含まれる資源は無制限ではない。たとえば石油は世界の年間使用量は 2,000 万トンと言われる。森林の伐採は水害、洪水の原因をつくり、生態系にも、多大の影響を与える。森林から発生する酸素の、伐採による発生能力の喪失量は 2 億トンから 3 億トンとされ、森林の伐採による炭酸ガスの吸収能力の喪失量は 4 億トンにもなると言われている。
- ② **異常気象** 1970 年以降の偏西風（ジェット気流）の蛇行によって、寒気と熱気の流れが通常とは異なった形で起こる。もう一つは温暖化現象で、海面の水位の変化に現われている。1900 年から 1990 年までの 90 年間の水位の変化は 10 センチであったが、1990 年から 2000 年までの 10 年間の水位の変化は 120 センチとなっている。

- ③ **汚染** 主に大気汚染、水質汚染、土壌汚染の三つが挙げられ、更にそれらから二次汚染（体質汚染や環境汚染）が発生する。

## 聖書における終末の見解

聖書で語られている終末とは？

マタイ 24：3 に見る「世の終わり」は原語では「スン・テレーアス」で「熟しきる」という意味である。すなわち、神の計画が熟しきったことを現している。

エペソ 1：10、マタイ 22：4

I ペテロ 1：20 には「キリストは世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました」とあり、キリストが世に来られたのはすでに世の終わりの時であることが判る。したがってそれから 2000 年以上を経た今の時代は「まさに世の終りの中での、終りの時代」である。

キリストは弟子たちの**世の終りの前兆**について答えて語られた。マタイ 24：3

- ① **政治的不安** 戦争、分裂、対立、
- ② **気象的不安** 地震、ききん  
1900 年から 1950 年に起こった M5 以上の地震の発生数は 33 回、  
1950 年から 2000 年に起こった地震は 550 回 現在もアフリカでのききんは深刻である。
- ③ **社会的不安** 愛の冷却、性的な乱れ、秩序の崩壊、道徳の低下、  
いのちが軽く扱われる現代の世相
- ④ **宗教的不安** にせキリスト、にせ宗教の出現、  
パウロは「終りの日には困難な時代がやって来る」II テモテ 3：1  
に忠告している。
- ⑤ **文化面の発達** 交通機関の発達と知識の増加  
ダニエルは交通機関の発達と知識の増加について預言している。  
「多くの者、往き渉らん」（文語訳）は交通機関の発達を、「而して知識が増すであろう」と知識の増加を語っている。ダニエル 12：4
- ⑥ **聖書預言の成就** イスラエルの再建と回復、繁栄と世界宣  
神が送られたメシヤを十字架につけたイスラエルは国を追われ、  
全世界に散らされる。申命記 28:49～66 しかし、神は彼らを顧みて、再び彼らを故国に集められる。 エゼキエル 37：21 そし

て 1948 年 5 月 14 日、世界が驚く間にイスラエル共和国が誕生する。イザヤ 66 : 8 (いちじくのとえを参照 マタイ 24 : 32)

「福音は全世界に伝えられて終りが来る」マタイ 24 : 14 と語られている。今や世界中の何処にいても福音が届かない所はなくなっている。

### III 黙示録の解釈

- ① 霊的解釈            オリゲネスやアレキサンドリヤ学派を中心として広められた解釈で黙示録を象徴的、霊的にとり、偉大な寓話と考えた。
- ② 過去主義的解釈    この見解では、黙示録は初代教会とユダヤ教や異教との戦いを記録したものと考えた。
- ③ 歴史主義的解釈    キリストの再臨において究極に到達する教会の全歴史を象徴的に示したものとしている。
- ④ 未来主義的解釈    黙示録を未来的にとらえ、特に 4 章以下を未来的に考えて、教会の携挙につづく患難時代とキリストの顕現、キリストの千年王国、新しい天と地を描くものとする。私たちはこの立場をとる。

### IV 黙示録の概要

1 章                    序文    復活のキリスト

2、3 章                七つの教会への手紙    教会の時代

エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、  
フィラデルフィヤ、ラオデキヤ

4、5 章                教会の携挙 (空中再臨) と小羊の御座の光景

6~18 章                にせキリストの出現と地上における患難時代

6 : 1~17                七つの封印

8 : 6~11 : 15            七つのラッパ

19章	天上における聖徒たちへの報いと小羊の婚宴と
20章	キリストの顕現 (地上再臨)
20章	千年王国時代 と 最後の審判
21、22章	新しい天と地

## V 七つの教会 2 :、3 :

- ① **エペソ (弛み)** アジア最大の都市 アルテミスの神殿を中心とした偶像信仰の町 (使徒 19) のち、異端が入り込む。異端に対する神学問題に関心を持つ。労苦と忍耐が賞賛されているが、はじめの愛から離れ、兄弟愛を失って批判に傾く。「初の愛に帰れ、さもないと灯台を取り外す」
- ② **スミルナ (没薬)** BC1,000年よりの古い町 BC700年、リデヤ人に征服されたが、BC300年再興した。迫害と殉教の教会。2世紀半に及ぶ大迫害の中にも最後まで主に従って、忍耐の実を結ぶ。「第二の死によって害なわれることはない」
- ③ **ペルガモ (結婚)** BC133年ローマに占領されるまで独立王国の首都として栄えた。ローマはアジア地方の公認の首都とし、BC29年には皇帝礼拝のために神殿を建てた。道徳的不品行による墮落 (バラム民数記 31 : 16) と世俗権力と宗教への妥協 (世俗との結婚)  
サタンは迫害によって教会に挑んで来たが、失敗したので、手を換えて教会の内部に働きかけ、世俗と妥協することによっていのちを失わせようとした。真理の欠乏。
- ④ **テアテラ (女の圧制)** 軍事的前哨基地から繊維による商工都市となる。使徒 16 (神の国の<sup>とりで</sup>砦は商業的営利化された町となる) 腐敗による純潔の欠乏。イゼベルによってイスラエルにバアル礼拝が持ち込まれ、霊的衰亡と破滅をもたらした。I列王記 16:29～33

- ⑤ **サルデス (残れる者)** 自然の要塞で軍事行政都市。 要塞に安んじた生活。バビロンのベルシャツアル ダニエル 5 章 生きているのは名だけで死んでいる。形式主義によるいのちの欠乏。
- ⑥ **フィラデルフィア (兄弟愛)** 交通の要所。文化 (開かれた門) ぶどうの集荷地  
 門を開いた 証しの機会を保証  
 足許にひれ伏させ 教会の敵が屈服させられる  
 あなたを守り 世界的試練からの保護  
 聖所の柱とする  
 宣教時代における愛の勝利
- ⑦ **ラオデキヤ (民を喜ばず)** AD60、61 の大地震により崩壊、のち自力で復興し、商業都市となる。  
 毛織物の中心地  
 薬科学校 (目薬)  
 自己義による自己満足、熱の欠乏  
 精錬された金 信仰 審き主なる父  
 白い衣 義 救い主なる御子  
 目薬 幻 慰め主なる聖霊

マタイ 13 章の天国のたとえとの比較

<u>黙示録 2、3:</u>	<u>時代</u>	<u>マタイ 13:</u>
エペソ	使徒時代	種まき
スミルナ	迫害 (殉教) 時代	毒麦
ペルガモ	教会拡張時代	からし種
テアテラ	中世暗黒時代	パン種
サルデス	宗教改革時代	畑に隠された宝
フィラデルフィア	プロテスタント進展時代	良い真珠商人
ラオデキヤ	現 代	地引き網

## 各教会に対するキリストの再臨の約束

エペソ	2 : 5	「あなたのところに行って」
スミルナ		殉教時代の教会であるゆえ、キリストの再臨前に御許に行く教会であるために、 再臨の記はない
ペルガモ	2 : 16	「すぐにあなたのところへ行き」
テアテラ	2 : 25	「わたしが行くまで」
サルデス	3 : 3	「わたしは盗人のように来る」
フィラデルフィヤ	3 : 11	「わたしはすぐに来る」
ラオデキヤ	3 : 20	「わたしは戸の外に立って叩いている」

## VI 差し迫っている出来事 4 : 1~11

ラオデキヤ教会に象徴される現代の教会が直面する問題はキリストの再臨と教会の携挙である。(ルカ 17 : 34、35) 再臨の時期については何時かわからない。だから何時、再臨があっても準備が出来ていることが大切である。マタイ 24 : 27、42、ルカ 17 : 34、35、I テサロニケ 4 : 16

聖書によれば、キリストの再臨は携挙(キリストの体である教会が天に上げられる空中再臨)と顕現(聖徒たちと共にキリストが地上に来られる地上再臨)の二段階で行なわれる。この間が患難時代と呼ばれる。

なお、携挙の時期については「患難時代の中で起こる」とか、「患難時代の後で起こる」という異説があるが、私たちは「患難時代の前に起こる」という見解に立っている。この見解を予表する出来事が旧約聖書の中に見られる。それはエノクがノアの洪水前に天に上げられたことである。創世記 5 : 21~24

エノクが 65 歳のときにメトシェラが生まれる。言語学者によると「メトシェラ」とは「彼が死ぬと洪水が遣わされる」という意味である。メトシェラの子どもはレメクであるが、レメクは父、メトシェラより先に死ぬ。そしてその後、メトシェラも死んで、ノアの時代となり、大洪水が起こっている。

携挙のときの地上における現象についてはマタイとルカによって記されているが、マタイには昼間の様子が、ルカには昼と夜の様子が書かれている。地球は球体であるから東半球が昼であれば、西半球は夜であり、東半球が夜ならば、西半球は昼となる。キリストが来られるときもある国、ある地方は昼でありある国、地方では夜であるので、ルカは説明的に記していることになる。さらにマタイ 25 : の中に記されている「花婿を待つ 10 人の乙女」によって教会の状態を見ることが出来る。花婿が来るのが遅いの

で皆、眠りかけてしまう。ともしびを掲げて待つためには油（聖霊）と通りよい芯とが要求されている。「ともしびを整える」と言うことばは炭化して固くなった芯に「鉄を入れる」と言う意味である。ペテロはキリストの再臨について誤解している人々を戒めている。Ⅱペテロ 3：8、9

## VII 預言に見るイスラエルの回復

今日、世界の注目を集めている中東情勢は時代の鍵を握るものである。特にイスラエルとアラブ諸国との緊張は度を増している。この問題は近年になって起こったものではなく、その発端はアブラハムの時代にさかのぼる。アブラハムとサラとの間に生まれたイサクの子孫がイスラエル民族となり、アブラハムとハガルとの間に生まれたイシュマエルの子孫がアラブ民族となった。このイシュマエルがアブラハムの家を追われたことが長く、今日まで尾を引いている。これらのことから、その解決は容易ではないことが理解できる。

イスラエルは申命記 28：49～68 の預言に見るように、ローマによるエルサレムの崩壊によって彼らは祖国を追われて全世界へ散らされて行く。しかし、彼らは再び、パレスチナに集められ、イスラエルと言う国を再興するという預言（エゼキエル 36：24、25 と 37：21、22）のとおり、1948年5月14日にイスラエル共和国が誕生するのである。イザヤ 66：6～9 cf. いちじくのたとえマタイ 24：32、33 を参照  
ここでイスラエルの再建に至る経緯についてのポイントを挙げる。

- 1897年 オーストリアのユダヤ人ジャーナリストであったテオドル・ヘルツルが Zionism Movement 「故国復帰運動」を起こす。
- 1908年 故国に帰国したユダヤ人たちはエルサレム城外まで、住む。ドイツ、フランス、オーストリア、における反ユダヤ運動が起こる。ナチスによるユダヤ人の大虐殺。
- 1917年 英国外相バルフォアにより、パレスチナがイスラエルの領土であることが宣言される。
- 1947年 国連決議により、パレスチナがイスラエルとアラブに分割される。
- 1948年 イスラエルの独立。

## VIII 小羊の御座の光景と聖徒たちの礼拝 4：、5：

小羊の御座の回りには 24 人の長老たちの座があった。24 は旧約におけるイスラエルの 12 部族と新約における 12 使徒であり、旧約、新約の聖徒のすべてを表すという説がある。



## IX 患難時代の出来事 6:~18:

患難時代についてマタイは「世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難」と言っている。マタイ 24:21 ダニエル 12:1 地上はサタンの受肉と言われるにせキリストが政治、経済、宗教を支配となる。黙示録 13:

### 七つの封印のさばき 6:1~17

- ① 白い馬 (反キリストの出現) 白い馬の騎士は勝利者キリストのように見えるが、偽キリスト、不法の人である。パウロは彼の出現の時期について、Ⅱテサロニケ 2:1~12 の中で彼の出現を「引き止めるものがある」と語っている。2:6、7 「引き止めるもの」とは教会であって、教会が天に挙げられるまでは現われない。  
また、黙示 12 章ではサタンが天で、御使いミカエルとの戦いに敗れ、地に落とされて、海からの獣として現われる。(13:1) サタンの受肉と言われる。
- ② 赤い馬 (世界規模の戦争) 赤い馬の騎士は地上から平和を奪うことが許される。「大きな剣」とは核兵器を意味するものと考えられる。  
申命記 28:23、24
- ③ 黒い馬 (ききん) ききんの原因は異常気象や、人口の急増による需要と供給の均衡が破れる(ちなみに 2020 年には 78 億人、2025 年には 80 億人となる)また、政治的経済封鎖なども考えられなくはない。小麦 1 リットルが 10,000 円という物価騰貴が起こる。そのような中でも、オリーブ油とぶどう酒に害を与えることは禁じられる。これは貧富の差が現われることを言っている。
- ④ 青ざめた馬 (死) 偽キリストによって殺された者 (13:15) をはじめ、戦争、ききん、疫病による死者は地上の四分の一に及ぶ。
- ⑤ 殉教者の叫び 神のことばと自分たちが立てた証のために殺されたものたちの魂が祭壇の下から叫んでいた。彼らには白い衣が与えられ、殉教者の数が満ちるまでの休息が告げられた。
- ⑥ 天変地異 (小羊の怒り) 太陽は黒くなり、月の前面は血のようになり、星は地に落ちて、天は巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。
- ⑦ 静けさ ラッパのさばきの説明に入る。

	<u>ラッパ</u>	<u>鉢</u>
① 地を背景として	8 : 7	16 : 2
② 海を背景として	8 : 8、9	16 : 3
③ 川を背景として	8 : 10、11	16 : 4~7
④ 天体を背景として	8 : 12	16 : 8、9
⑤ 暗黒	9 : 1~11	16 : 10、11
⑥ ユーフラテス川を背景として	9 : 13	16 : 12~14
⑦ 国々への怒り	11 : 15	16 : 17~21

封印、ラッパ、鉢による審判の配列は直列 (a) ではなく、並列 (b) と思われる。

a.	<u>封 印</u>	<u>ラ ッ パ</u>	<u>鉢</u>	千年王国
b.	<u>封 印</u>	<u>ラ ッ パ</u>	<u>鉢</u>	千年王国

11 : 15 には「この国は主、キリストのものとなった」と記されているので、第7のラッパの終りは王国の直前であり、その後に鉢のさばきが続くということは考え難い。

また、夫々のさばきの終りには「雷鳴、声、いなずま、地震、(雹)」の現象が見られる。

8 : 9、11 : 19、16 : 17

## X 患難時代におけるふたりの証人 11 : 1~12

神はこの時代にふたりの証人を立てられる。彼らは記述によるとゼルバベルとヨシユア 11 : 4 エリヤとモーセ 11 : 6 と言われるが、断定は出来ない。彼らは殺されるが、神から出たいのちの息が入っていかされ、天に挙げられる。私たちは患難時代前携挙説をとるが、教会は患難時代を経験するが、患難時代の中で携挙されるという説をとる人々は、ふたりの証人をイスラエルと教会であると考えている。

患難時代が7年間続くという根拠は旧約聖書のダニエル書 9 : 24~27 にある。これは「ダ

ニエルの70週の預言」と言われ、イスラエルと聖なる都に関して定められていることについて語られている。

エルサレム再建の命令 BC445 から エルサレムの完成 まで	7週 (49年)
エルサレムの完成 から メシヤの死 まで	62週 (434年)
エルサレムの再建命令からメシヤの死までは	69週 (483年)

(メシヤの死からは異邦人の時代になるのでカウントされていない患難時代)

この時代にセキリストが現われて神殿を汚す	1週 (7年)
----------------------	---------

## X I にセキリストについて

### 1. 名称 (その性質を示している)

① 不法の人 (滅びの子)	Ⅱテサロニケ 2 : 3
② 荒らす憎むべき(忌むべき)者	マタイ 24 : 5、ダニエル 9 : 27
③ 小さな角	ダニエル 7 : 8、20~27 8 : 22~26
④ 卑劣な王	ダニエル 11 : 21~45
⑤ 海からの獣	黙示 13 : 1
⑥ 6 6 6	黙示 13 : 8

### 2. 出現

時期	黙示 12 : 7~9、6 : 2
出現を引き止めているもの	Ⅱテサロニケ 2 : 6、7
天において御使いミカエルと竜(サタン)とが戦い、竜は地に投げ落とされる。 黙示 12 : 9 地に落とされた竜は人間として現われる。(サタンの受肉と言われる) 13 : 1 には「海から上ってくる獣」と記されている。海とは民族、群集の意味である。彼はカリスマ的権力を持ち、スーパー・スターのように人々の人気を集めるばかりでなく、世界の難問題を次々と解決してますます、人々の心を捕らえる。ダニエル 11 : 23	

### 3. 活動

ダニエルの預言や幻によれば、にセキリストは復活したローマ帝国と呼ばれるものと思われる。ダニエル 7 : 7、8 歴史上のローマ帝国 (BC168~AD476)

はすでに滅んではいるが、その影響力は世界中に今なお、見られる。政治的にはローマ法は世界の法治国家の憲法の基礎であるし、宗教的にはローマ・カトリックの信仰は世界中に広められていて、ローマ法王の発言、権力は世界に大きい影響力を持っている。文化的には世界の三分の一以上の国々のことばはローマ語（ラテン語）が土台となっている英語である。かつてのローマ帝国が強大な権力をもって世界に君臨していたように、にせキリストの王国もそのような存在となるであろう。したがって復活したローマ帝国は世界支配に向かって活動する。黙示 17：7～13 の中に見られる「七つの山」とはローマを囲んでいる七つの山と思われる。

一方、にせキリストの王国はバビロンというなで再登場している。黙示録 16：19、17：5、18：2、10、21 しかもこの名前は復活したローマと関連した形で現われている。このバビロンは「すべての淫婦と地の憎むべきものの母」と呼ばれ、かつて栄華を極めたネブカデネザルの王国が復活した国のように思われる。この国は世界貿易によって富み、黙示録 18：12、13 ますます、世界の経済的実験を掌握するようになる。

したがって、にせキリストの王国はローマの政治的権力とバビロンの経済的繁栄とを併せ持つような大国となる。現在の EU（ヨーロッパ共同体）における政治的、経済的な動きを見ると、将来のにせキリストの王国への布石が感じられないこともない

#### 4. 滅亡

この国は神の審判によって、突如として滅び去る。黙示録 18：、ダニエル 7：26、27、 8：24～26

### X II 千年王国 黙示録 20：1～10

#### 千年王国について ( Millenium )

キリストの再臨と千年王国に関しては次の三つの説がある。

- ① 千年王国前再臨説 正統的な説として支持され、世界は次第に良くなるのではなく、悪がみなぎり、II テモテ 3：1～5 審判に向かって進んで行く。そのとき、突如として主が来られる。マタイ 24：36～44、50
- ② 千年王国後再臨説 千年王国は福音宣教と社会状況の進展、発達によってもたらされ、その後、キリストは来られる。
- ③ 無千年王国説 千年王国を霊的、象徴的に解釈し、実際に地上に千年

王国はなく、キリストの再臨はこの世が終わって、永遠の御国への移行を示す。

## 千年王国の目的

- ① すべての神の敵を滅ぼす。 I コリント 15 : 25
- ② 千年期の神殿を建てる。 ゼカリヤ 6 : 12、13
- ③ アブラハムとその子孫に約束されたように土地を 12 部族に分与する。 創世記 15 : 18
- ④ 患難時代を経て残された諸民族に伝道する。 イザヤ 2 : 2~4、ゼカリヤ 8 : 23
- ⑤ 世界的なキリストの王国を確立する。 イザヤ 9 : 6、7、ダニエル 2 : 44、45

## 千年王国の性格

神政政治 (Theocracy) 教会と国家とは一体化されて、キリストの下に置かれる。聖徒たちはキリストとともに治める。 ダニエル 7 : 27 エゼキエル 37 : 24~28、ミカ 4 : 3~7、I コリント 15 : 25、II テモテ 2 : 12、ローマ 5 : 10、エゼキエル 43 : 7、イザヤ 2 : 3

知識 知識は全世界に満ちる。イザヤ 11 : 9 ゼカリヤ 8 : 22

平和 キリストのもとに平和は確立されて、全世界に及ぶ。 イザヤ 9 : 6、7

経済 世界的経済制度 (什一) の確立による繁栄。マラキ 3 : 10  
(cf. 律法以前 創世記 14 : 20 律法下 レビ 27 : 30 律法後 マタイ 23 : 23)

繁栄 普遍的繁栄。イザヤ 65 : 21~23、ミカ 4 : 5

長寿 人間の寿命はノアの洪水以前の寿命にまで延ばされ、死は例外となる。  
イザヤ 65 : 20

動物 すべての野獣性と有害性は失われる。イザヤ 11 : 6~8、65 : 17~25

土地 人間の罪による呪いから回復され、美化されて、豊かな実りをもたらす。  
イザヤ 32 : 1~10、15、55 : 13、ヨエル 3 : 17~21

聖霊 全地に聖霊が注がれ、 ヨエル 2 : 28~32、 エゼキエル 36 : 25~27、偉大な救いと癒しのわざが行なわれる。 ゼカリヤ 12 : 10、13 : 1、イザヤ 35 : 1~10 そして人々はみな、キリストの權威に従う。黙示録 11 : 15

### 聖書における千年王国の名称

その日	ヨエル 3 : 18、ゼカリヤ 13 : 1
来るべき世	マタイ 12 : 32、エペソ 1 : 21
キリストの王国	マタイ 20 : 21、エペソ 5 : 5
慰めの時	使徒 3 : 20

### XIII 新しい天と地 21 : 22 :

黙示録の最後は輝かしい永遠の都について記されている。聖書の冒頭に「初めに神が天と地を創造した」と宣言されているが、その地は人間の罪のために破壊され、むなしい世界となってしまったが、キリスト十字架のあがないを通して人類の救済が完成され、さらに罪によって人類が失ったものはキリストによって回復されて神の御手により新しい天と地が出現する。

そこには新しい都があり、神の栄光が都を照らし、神と小羊の座が都の中にあって、そこから都の中央を流れるいのちの水があり、両岸には豊かな実を結ぶいのちの木がある。小羊の書に名が記されてある者だけがそこに入ることが出来る。しもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見るのである。

### XIV 黙示録のまとめ

序文 1 :

教会時代 (七つの手紙) 2、3 :

教会の携挙 (空中再臨) と御座の光景 4、5 :

患難時代

にせキリストの出現と活動 6 : 2 12 : 7~9 13 :

封印によるさばき	6～8 :
ラッパによるさばき	8～11 :
鉢によるさばき	15、16 :
大淫婦と大いなる都	17、18 :
小羊の婚宴とキリストの顕現 (地上再臨)	19 :
千年王国時代	20 :
最後の審判	20 ; 11～15
新しい天と地	21、22 :

「万物の終りが近づきました。ですから祈りのために、心を整え身を  
 慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は  
 多くの罪をおおうからです 」 I ペテロ 4 : 7、8

黙示録の終りには「渴くものは来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受  
 けなさい」と最後の招きがなされ、「私はすぐに来る」と3回も強調されている。

「アーメン、主よ、来てください！」